

引田 渙也 選

秋田 美津子 作

選者感想…女性らしい繊細さに溢れた句

虹立や初孫生まれしその夕に
山寺の読経さへぎる秋の蝉
蒼天に白き月あり冬木立
子とつなぐ手の温もりや春そろり
包丁の研ぐ手休めて春の雪

鈴木 久米男 作

選者感想…旅情豊かな旅の句

食すれば朴葉の香り飛驒の旅
胡弓の音艶で哀しき風の盆
モンタンの枯葉の季節古喫茶
峠道寒星降りて里灯る
修行僧比叡の山の雪解道

長岐 途夢 作

選者感想…着眼点のユニークさ

引き籠りラジオに酒に鯉かな
慰霊の日沖縄おほふ戻り梅雨
独り居の好み詰まりし冷蔵庫
首傾ぐ幼子の目に茄子の馬
新酒時一口含む下戸の母

西 修一 作

選者感想…時事に鋭い句

無観客馬群駆け抜け秋の風
薄紅葉静かに暮るる光堂
青天に佐倉城址の櫺紅葉
湯豆腐やひとりぼっちの二人鍋
新しき風に寄り添ふ福寿草

引田 渙也 作

一片の雲無き富士や初御空
ぼた雪を受けて悠然最上川
無精髭白きを増して初冬かな
台風一過蒼天高く一機行く
暖かや砂場のそばの乳母車

(文責…俳句部会幹事 西)

以上